

## 第2回主題研アンケート 分析結果(11月実施分)

### [家庭学習について]

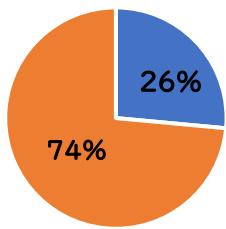
#### 生徒の現状

- 各学年、2学期からは教科からのプリントや生徒自身が必要だと感じるものを宿題として取り組むという方法を実施しているが、肯定的な意見が多い(全体の7割超え)。
- その中でも、「自分に必要な学習ができる」「やらせる勉強ではなく、やる勉強になっている」「宿題が早く終わって、自分がやりたい勉強ができる時間があって良い」といった、自分で主体的に考えて、取り組めるから良いという理由で、肯定している生徒が全体の2割である。特に1・2年生にこのような意見が多かった。
- 宿題以外の学習に取り組んでいる生徒は全体の6割であった。
- 「家で宿題について話す機会がある」と答えた生徒は全体の2割であった。

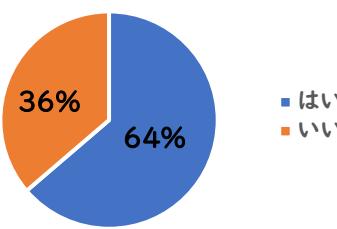
#### 考察

- 前回のアンケートから、宿題以外の学習をしている生徒の割合が増えており、自分で考えて取り組む学習の必要性について、理解が広がり始めている。
- 肯定的な意見の中には、宿題が少なくてちょうど良い」という捉え方の生徒もいるため、この学びが何につながるのか、やったらどれだけ結果につながるのかについて、学級担任を中心に生徒に伝える必要がある。やればできると実感を伴って生徒が理解できるように、テストの結果の分析等を伝えられると良い。
- 家庭で宿題について話す機会はあまりないという実態であるため、学校からの宿題や取組についてホームページや学級通信等で発信し、家庭と連携した指導が必要である。

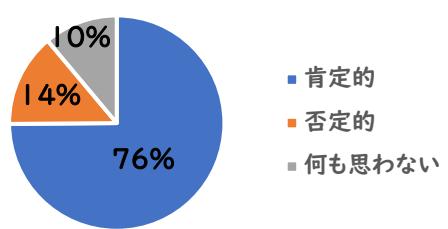
家で宿題について話をする機会はありますか



家で宿題以外の学習をしていますか



今の宿題についてどう思いますか

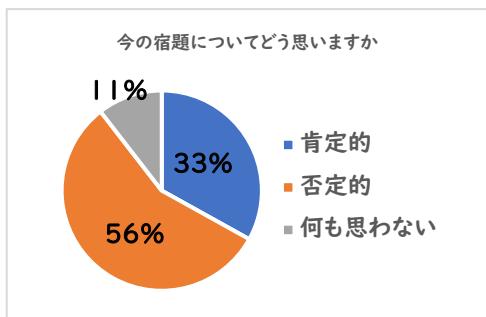
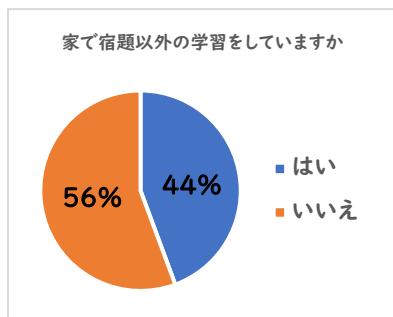
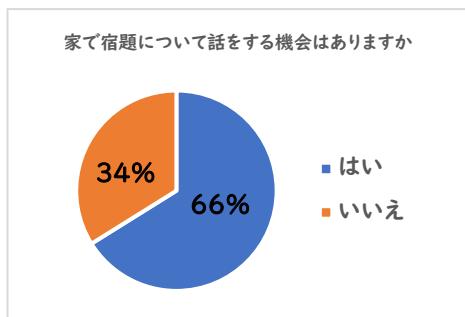


#### 保護者の現状

- 全体的に今の高千穂中の宿題について、「少ない」と感じる」「勉強のやり方がわからない」などの不安に感じている意見が全体の6割であった。
- 「家庭で宿題について話をする機会がある」「宿題の内容を把握している」と答えた保護者は全体の6割であった。
- 子どもが家庭で宿題以外の学習に取り組んでいると答えたのは4割であった。

#### 考察

- 生徒とは逆の結果になるものが多く、生徒と保護者で家庭学習に対する認識に差が生まれている。
- どのような宿題が出されているか、どのような指導がされているか等、保護者が把握することができない状況がある。



### 今後の目標

- 宿題に対する学校の指導内容や方法を発信し、保護者の関心を高め、学校と家庭が連携した指導ができるようになる。
- 家庭学習をする必要性を感じさせる取組（数学の計算問題や英語の単語学習など）を行い、学校が、向上した結果を示す。
- 引き続き、学年ごとに、自分に必要な学習について知る機会をつくり、キャリア教育と関連付けて、自分で自分に必要な家庭学習を選択し、実行していく力を育成する。

### 今後の取組について

- 今週の宿題として、それぞれのクラスだけでなく、各教科でどのような課題を出しているかを保護者に伝える一覧表の作成を検討する。
- 宿題の効果や取組の成果について分析したものを、生徒に伝える機会を設ける。
- 学級通信や学級懇談、HP等を使い、宿題についての情報発信をし、学校と家庭で連携できるようにする。
- 今後も中学校卒業までの自分のキャリア達成のために必要な学習について知り、学ぶ機会をつくる。

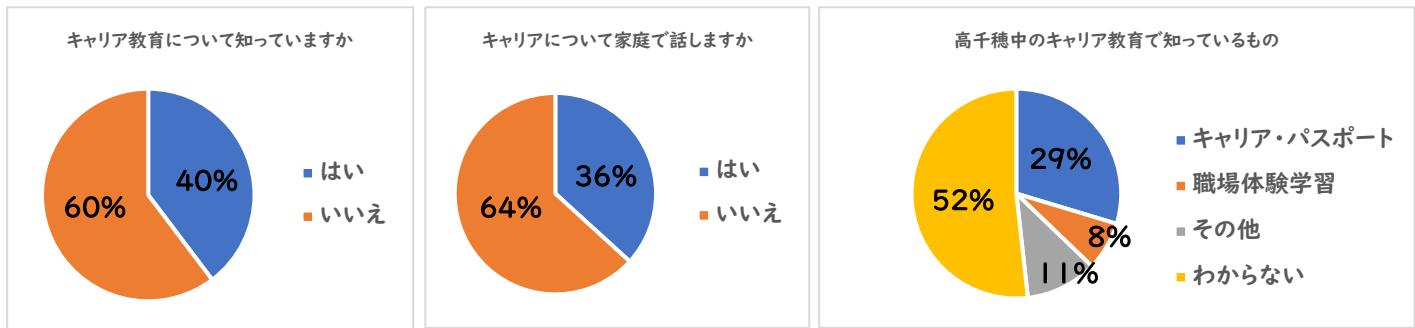
### [進路学習について]

#### 生徒の現状

- ・ 1回目と比べて、「キャリアやキャリア教育について知っているか」「キャリアについて家庭で話をするか」という質問に対する答えは、ほとんど変化がなかった。
- ・ 本校が実施しているキャリア教育で知っているものについては、1回目に多かった「キャリア・パスポート」以外にも、「職場体験学習」「地域伝統芸能」「三者面談」など様々な回答が見られるようになった。また、3年生においては、「キャリア・パスポート」と回答した生徒が前回の34%から44%にアップした。

#### 考察

- ・ 2学期になり、学校としてキャリア教育にも関連した教育と認識している活動が多くあったが、高千穂中が実施しているキャリア教育についても「わからない」と回答した生徒が半数以上いるように、生徒には「キャリア教育」という言葉が浸透しておらず、学校の活動と結び付いていない。
- ・ 逆に様々な活動を実施したことにより、「キャリア・パスポート」以外にも実施しているキャリア教育について、生徒の意見が分かれてきてている。また、「キャリア・パスポート」についての取組を重視したことにより、各学年「キャリア・パスポート」の回答は増えている。

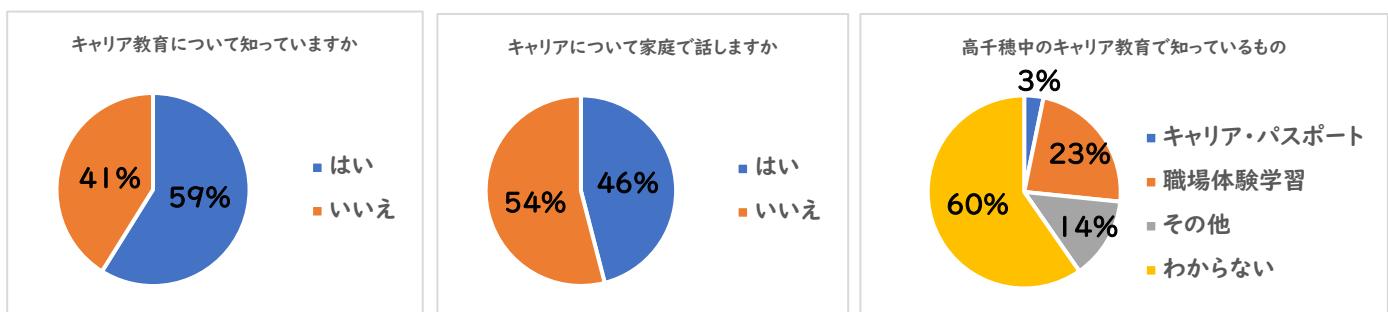


### 保護者の現状

- 「キャリアやキャリア教育について知っている」と答えた保護者が約6割で、前回の3割から大幅に数値が上がった。
- 「家庭でキャリアについて話をする機会がある」と答えた保護者は約5割であり、主に「将来の夢」や「高校」についての内容であった。
- 「高千穂中で実施しているキャリア教育はどのようなものがあるか」で答えた内容で「キャリアパスポート1割未満」「職場体験2割」「わからない・把握していない6割」他に「講話」、「伝統芸能」、「校外学習」、「立志の集い」、「三者面談」等の意見が少数見られた。

### 考察

- キャリアやキャリア教育に対する認知度が大きく上がり、1回目と結果が逆転した。
- 約半数の家庭が、キャリアに関する話をする機会があることから、高校入試が近づくにつれ、あるいは、進路や職業に関する学習があることで、話をするきっかけになっていると考えられる。
- 生徒と同じく、2学期は様々な活動があったことで、キャリア教育の実施状況については、少し回答の種類が多くなっているが、学校で実施しているものがキャリア教育につながっているということについては、理解が不十分である。



### 今後の目標

- 生徒・保護者ともに、各学習や行事がどのようにキャリア教育につながっているか認知度を上げる。
- キャリア学習の取組についての認知度が上がることで、家庭でキャリアに関して話す機会がさらに増え、自らのキャリアについて考え方行動できる生徒を育成する。

### 今後の取組について

- キャリア・パスポートを有効活用し、学級でキャリア・パスポート(行事前)を書かせる際に、各種行事や学習とキャリア教育とのつながりについての指導を徹底し、保護者とも連携を図る。
- HPや通信等を使い、高千穂中学校のキャリア教育についての情報を発信する。